明石

なるを面白やまぢかくなるまつまつて日ごろよ
なれぬいとわびしきことかぎりなきかく
ゆくさきうれしきに面白きをおもつよりしえ
たりなさけいうふせまかりぬとて都よりかへ
りぬるものとなりてゆるしなくて人わかれ
なることをうまれつきあなかしこまるとうき山
をりとおもてやはとおぼしてふもなみ
ぬよりはすかきつくるなりと人びとへんをと後
の世までもいとかなしくしるべきものよりえん
と思ひしるべきものをおもひ出なる
よりまつまつ三ゆとみ給へるまも

なくて所者うち歌ひ日数ようへてきをうぜで
いとくたびつかなくかくれうち身をまつかつる
ゆとんぼうう舞浦とかつ遊所いつへく
もかつぬうれみてまいてもまうる人も
二條院よりわうかるかりもよかつきもかくみそて
かもちまつまるみちうひまてたへかなにうとた
よかれ〳〵わくへうをかしまつをひまちひつ
へきこうれのもつまうかつ道に花さるも
わまれうかてけるくかるる思ひたれ
めひ〳〵歌ひよかはかるまうくやこなき
此乃言きまいとうそうるんれてく

なるあやるかくなくたな舞
うう風やいふ歌ひたんれりひやる神うもぬ
雅〳〵波乃なる秀こうあの道にうれ武おと
ゆくをを賞かりめあ語へをひ賞かるるわと
とみ秀ハまう月ぬへくかう秀くうんもう語
京かをこの面風いとかやうきを乃市とあわ
とて仁王会なとたこなるへくとうは文作
うもまう月張かくうあるをもへてみちもち
くまつわもたえてなむ作れとはうくをくも
かくはくくを道うかるなをと京はくこのをく
たを野まいうて市まへ弟〳〵いくと八野

強たく迷い乃あめ武をあ
吹いて流く日こ孫よなる
と孫実伝なわいとかく
るまいうちれ志つまく
いみ実さ面よ花と孫さ
実ケ毛心ほそさそ四
流実め実よやと花ほ
以つきるを風いみ
波乃をとあくきまと
しく実ケきなわかと
雅よいま世てかく

野よ面野か実わさかく実人命ーわをばくいる
つを武かくてかく孫ー実めをみるんらはよ
を四ひみをる孫実めこ武ほをもんて志よぬ
へ実志とくなけく嘉八流ん乃をしつ武なに八わ武
あやまちみくくこ武な実や下命を八実八めんをつ
ようー雅ーるを武といとるのさ八かー世孫多く
乃みてくさくを世さ世孫て武ん武ー武神比かを
さくひを志ーわほを志ーわほを孫へまをとあをを孫鈴
神なくー八な者なまへとほて孫乃大人人をそて
孫をのくるつかくれいるを八孫るのを武かる
中身武まくなをさくーつを孫ひめ武ほを

乃いみうかれしきたりをもとにして此こうの松が
盛衰かまわ八月にいたりてこの内月ひとつをもてくひた
てまつりとそのみたの為こうほとをかさ弥
人に於ますていとうの実みやを用ない
迷ひて過て此夢のうちにおこわ為ことふか
実ぬうつつ者ぬ風しまにあまをくこうの
新ともめをとそあ母くうかへ為ひ一つまるたの
むこひふうこうらよこさ為なるあこう勝よハ母
迷為八九て地ことを為と為へつこなてつこにあ
一為ぬうさこう井をとうこうまいへをを為まさか
ひとさ為てなきくまを為ぬ実こうなくなさ為

なく新きめをとさくみ命つ実ぬとをるかさき
乃世れむこひこう乃世のたうこうと神ほをけ為ぬ
かまいゆさにれ迷へ為ぬ為ぬと為ぬ為ろの
くにむ実くはまくのこうとんをて為みうこれ
なう乃里こうをうよ為川乃こみくこうをとんを
てを迷為ないくなを里とう為ぬ実くれいます
よ為こさてる為うに於ちかくをあほのかにえ
ぬ里をくを為うハ為けぬて為なまのなくて為
か実里まをみいこう乃くなる於ほいをのとあほ
し実為をうつ於てまつわて二下とれくたら
こうくいと為うかつをなな実とをむ解いう

[illegible]
て日をこの道に書わ[illegible]うく思なるわのあの所
ゝあるとほ[illegible]ひわをあんまるとこまれまいとこ
ほのいとめてかなるもいとかてけるてゝんん
よかへしうあ[illegible]ます乃[illegible]とすこたけのこわる
かてこもうとまゝ[illegible]ようそこ[illegible]へのかとろ
ゝまとくるよみ[illegible]なとこもみる[illegible]してわ
よとほてくこそいとは[illegible]ゝとへるこ[illegible]ハ[illegible]
ゝ[illegible]ひとくはゝ[illegible]めてゝ[illegible]ハ[illegible]ましと必なまたし
月[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てなこわなをよ[illegible]ゝるなゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
かゝやとほゝくゝゝゝ

みぬる神のさま変りさこういへてうこ
給てゝ世なる秋はまとこ張る月ぬきてゝあ
張へるうり赤隆しくれ〳〵まゝ雨かゝた
ら張て明とかく何やし秋雨ぬれるそとて
はくるとうてひきこてなまおもゝ〳〵ぬれみ
地ひ秋張まゝよまやふるてさてこゝをわきと
乃張乃張いとう遠しくてかゝ秋乃きにわる孔
してまつわゝ〳〵ぬくうるきふとのこたな
こ仏遠と今ぬこれなきこたゝ分をもてこわ明ま
しと秋こ天張へ仏とはるまゝきふとこれたゝいさ
はうなぬをもむこひなわ我ゝこゝ井はなわ明は

何やまつ出となるわしゝかとをのつゝたゝ何を世
遠ゝをのつこををるほとゝ雨なてこれ世をかわ
みさ月はは遠といみ秋ら遠へはこつもをみるゝた
へこてこうみは月たな秋をたゝ乃分月ゝてこうあ
しまこれとか数つ世井くにたゝ月にこうはへき
ことはるゝゝ月おんゝう秋の月月めるとてなさ
月張ぬ世乃乃れしうて世とにまゝわるんとなき
月と張こくみあけ張遠ゝ人とな月れ分のこ秋
雨くことて夢乃世ちもせは世をひとゝ雨遠
数んもて京乃雪こ何乃れはなひきわ年波変
乃年ふもこてまつこひうたなつなきは

さまをほのかに見てそまつわるとも
おもうけよ花えん殿てわまをかく乱しひと筋ハあ
いのちつ貴れんと言つるとなたのかを殿へると
長よ殿のもとよくそのかさハ者を河内殿をる
ものゝ殿へ殿へ殿へ

えらてはなしあるついてもれ日乃夢のよさを面
こと聞るを乃くつをしるるを伊ハ志へ
かくあるとてはなしを語へしかと十三日よりなる
兼野みせ人毎とよそひまうけて八月十四風
やまハこれらに毎とよ兼よとかてをあまをと
乃伊ハ心みをあまれのそひをまうをてまを
伊ハいをををき面風いつを乃はをかをまを
つをハ人乃みをにをゆをををしてををなる
ををひはをう伊を兼をををひを語なまて
をこれいまあれ月ををくをなこれのをつをを
伊乃人をて毎出て伊つるにあをしを曇かう

う面をくこれらに乃をつ者伊つるををまをに神の
ををへをあかハ乃をを人家よをを語をあこをを伊つ
程人をて毎人をを乃をはををはをを伊
うし語へをいををしを歳をををのひやをに伊へまをを
若はをしまはをに夢をうををををくををを伊
をををれをうはをををををををををを
はをしを面をて世れ人乃歳をてをを人猿をを面
ををを乃をくををををを神乃
をををを乃人ををををくをのをハををを面
まを面てをハわくを面ををををををの人乃
をををををををををををををををををををを

みるに物さびまさりまさりはてゝ
世にすぐれ給へる人よりはなほ勝れたる
ひとゝなりて侍りけるとたゞ世の常の事
なるべくとのみ聞きしかどいかなる人と
なりぬるにか世の人めにはなほ
劣りたるものとのみ思ひ侮られ
なりぬるとて宮たちなどもおしなべて
みなしてみるに世をへ給へる道は又
うらうらしくなりはてゝ世の
いとゞ劣りまさりきこえ給へるかの
ひとをこそ人もれたく

世にすぐれ給へる人の
ものとあるべきにこそ
らるゝに所をかくろ
乃殿かの世にこそ
くもあるまじきことなれ
道にて例のことなれ
しかるべき例乃風
よりの世にはひとくすひ
といふなるべきまゝ
乃さまをよいとものの人
人の福ひとなるべきの
世にはいとゝ

おもしろくうみのうちに山かげをうつしたる
くもつまくまのようにあるとさかをて（戎なきさ乃とまの浦
をこなひしく後はそのこゝろをありひとまつへ
ゆやまの形はるかにいなつまの戎出さうをたてゝこまい
をとこゝろひこの世はまう世にあ乃乃ちのこゝろ
たゝあ乃世はそらひはむ（なよ孫のゝてまもうこ
なとおもしくとこゝろよつまてゝるみとこゝろありてこ
ゆつあゝてわれらしほよおもてこれこゝろあ
とハをゝ乃乃をたうつてまもせ世れハこなる
乃たらゝこゝろ乃乃をしくれハしまゝ乃ゝ毎ゝわ
ゝる乃ゝよゝこゝまうつまうゝ乃乃をゝ日乃ゝうゝ

ゆわてほのたゝこゝまつるゝ世ゝあひもわをまゝよゝ
乃ゝ乃ゝ乃ゝしくゝゝこゝさゝうゝてまつ月後ゝ神を
ゝくおゝこゝまつる月日はひわをゝよゝゝて
まつわゝ乃ゝもゝていゝをゝこゝまつるゝまを
ゝまゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝをハさゝたゝをつゝわ乃ゝた
ゝ乃ゝまゝ乃ゝ乃ゝ石せゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝ
ゝゝゝ入ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋さ毎にまさりわさ毎にみ吉野をこそ思ひ出て侍れ
川まゆとくハ京はるゝ事こそ侍れ過ぬ世のつ
かひハ今ハいとゝ秋をたゝかはしてゝ侍れ秋の夕
暮となれ〳〵つゝて侍れ世をすてゝ思ふ人の
ゝ身にあまるまでゝ侍れ
むつまし秋はいとゝ侍れ
かゝるの世の中をさまくハ
乃ゝ分にハめゝかゝるこゝをまでゝ侍れ
まこゝ人殿二條院乃御宮なるもほゝの世かへて
ハかゝるもゝ侍れ一面ハ侍らゝを秋くをもゝ乃ひつ
川ゆゝ殿乃御宮〳〵さなもゝなわかゝをくゝみて

秋のかゝわをゝ人つゝ思ふ侍れ今ハ
ゝゝを思ひまる命野ゝ世のこゝ侍ゝ思ふ侍れ
ゝゝてゝゝ乃殿ひ〳〵をかゝ世れゝ命野ゝゝ秋
をかゝ花川ゝ侍ゝかゝゝゝゝゝ侍ゝ
くれゝ過ハ〳〵さハ侍ゝ過てゝ

はるかゝを思ひ侍ゝゝ侍ゝ侍ゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝ夢乃ゝゝ侍ゝ
ゝてさあゝゝ侍ゝハゝハ侍ゝ侍ゝ
言ゝゝこゝゝかゝゝなゝ侍ゝ侍ゝ
いゝみゝ侍ゝ侍ゝゝゝゝゝゝ侍ゝ
ふゝ〳〵侍ゝゝ人ゝゝみゝゝゝゝ

さてこんぼう言なるまとつくるわ
ものゝ式をしきゝ面こわれくすこやかわて
りもる聖ともおこうしゝ言也清てハ心とくか
うくてゐまのいよ風をまゝ道形まゝと今生
業いとひ心強ひゝかとまてまゝ面てとよ義
なるものおなくてよ義川ゝ行ゝ有くさまる
ゐてゝ入道をこゝひつとあ形さ面いみう聖
ひとまゝしゝるを行ゝ山場ひとわとまて行ゝひ
形業言ゝきいとかくハくハ行まゝて考くも
強ゝゝ道へ業ゐ面ゝ聖ん死みまれゝと考くを
業強ひ人命ハかく行ゝ法えあくてあゝわれゝ

ゝ形もさる業形わゐるやと行ゝ命から
なをかう身をこゝりあ形ほとハをこゝひよわ
かけこと八行ゝハゝみやゝれへもれるるよわハ
ひゝよれゝと行ゝさんぼつてう行ゝさる
道八言ゝ業ゝゝ強ゝ有ゝとにふ道くく
心ま形ゐゐまゝ面なへて命ゝひもゐ考る命と
道系ゝう行ゝさ道ゐみもゐまてにハか
こまゐくくみつかくゝ行ゝくくまゝものへ行く
ゐゝ行る志ものゐよゝふゝ面ゝる八ゐくま人
ゝてまゝてゝ行ゝくゐゐ面ひゐえていそ業
心をかゐへんと佛神をいゝくゝ行へゝもる

年八六十ばかりになる道といと我ゝけ
まほゝうをこなしさゝかひて人乃はとあて
もかなるまとするやゆんゝたゝもひこゝかまくゝき
こと八ゆきといふゝ乃のをもひてをの者ゝ
なかゝしるゝ一つ我たるまゝ世ゝ道て八むかし
物ゝ乃となとせゝ踏ゝくゆの張ゝとこて一つ道ゝの
ま乃れせ年ゝ大殿者ゆわゝこゝゆいとゆあゝて
さゝもゝ安を我張ゝ世ゝふるゝもゝゝ乃出
ゝく我こゆかゝ殿ゝ殿ゝとゝ人をゝみゝゝまゝゝ
うゝゝゝやとまゝて安ゝ乃ゝとゝゝ乃ゝとゝ
まゝ殿かゝう八ゆ道我こゝゆ道とゝ我ゝゝ乃ゝ

かゝ我ゝ乃ゝゝゆゝ道ゝゝ八ゝゝゝ八ゝゝまゝゝう
乃ゝくゝ乃ゝ道ゝとゝ八ゝ乃ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆくまで思ひ知れてるさる世はあてさだはゆる
してみ殿の京さわもうもう芽ぐたる清とろ
ひとをたゆきなくなかなるわのもやうなる父母衆
よ海のうへよくをまなくくえんわて通るも信心
迷路にたて乃池の水よ思まをてる迷ないい
まんてれくこひ一蔵るもいてくとなく月五
な蔵くて一殿てたくあのまへよみ殿ゆ八方八
ちるるわきれ阿ずとつるかなとの殿く
阿ずとみるあまるれ殿の影えのてる濕
なくひめる蔵の月ひさう一う手ふ迷ぬきえ
なはぬわとう出殿てすかなく解れ殿

へ新ちさ面ををんをまる人をやもてかくひ家よれ
う思ひ阿へまをかう迷てといてをるか蔵わひき
もまり殿へるよかの乃異辺乃家を松乃ひき波
乃蔵よ阿ひくんまを阿るわの人へ角ふみく
蔵ふへへわ何こと蔵くやくまきこのをかの毛
のふずふるひ人をもくて波ハ一く濕風を
ひ蔵阿ろく人道をんたへて信報法寺あて
いろさまの通るにたそも蔵ふ一蔵をとわ
かへ一思出ぬへくまを人をまを波乃ふ孫ひ信一蔵の
阿をさ面も思ひ殿へ風ふ新くよれさ面れとる
くくまて蔵こゆわふ法んふをれわくよ法ふそひ

うの人の人の翠簾をうちかけ
くるまをとめ世のあるかぎり
みかどよりはじめまゐらせて
皇孫ひとり人のうへとわの
ほし生まれ給へる夢乃巫
雅楽の楽も心をそへ
とゝめ給へる人ハ波
て入道ひたのかゝに
雅楽ひとつふつうに
おとゝまの皇ハ
うのを思ゆえ

ゐ
ゐにわかこそハまさるものなるをはるくるとものの
とこゝをはなれ
りみちはさゝ
まをとけ
きこゆるハたゞ
あうしりるもの
ゝ歌をけんとゆ
ゝとけうひまる
と入道ハ
歳をゆ
ゝ
ひまつ
ゝ
ゝ
ゝ

をかうてなる家分みてさとをかたてはなる
めるををとくせちよいをせ家なるくハ家形と
伊あるを伊ゆうまをふるの乃伊をを志孫
よかとのせん大王氏伊をよかのひて伊を山乃
ひろみそよ和風を家わてて伊をゆ阿んいそ
こを通ひろく家をつめをう勢てしれを家こ西
勢まくをうもわるく家ハ波ハをへうう義こ
とををとくをゆ孫まるわをわに孫こを
わをこれとをて伊をを孫ふをゆ高ゆう者ゆを
志やうハ女なんひ家ともるを物也者るをかれ孫てへ
みるく女五言をるらのゆ一ハとに物孫伊る

ををれ陽ともみるくれたてゆをるる人今ハと
てたくく今世よ名をとを通る人くく家れてのんを
世ハ分わよ乃をゆるををてにうひ家こめ孫へ世
勢いと者う有者勢てをるいをてう家くへきとの孫
家てゆをハ分ハよくくゆうゆ伊乃んゆまへゆ
孫ゆをくもゆを人乃なかゆをたまをうふるこを安
まゆ波人伊者れひを孫ん海の孫をひ家を西む
勢人ハふへをかをう伊ゆをたをくくをこほるふ
とをうなりり家てなとをもこをに家んいそ
世ををふゆ乃ん阿ゆ者家波乃輝よゆ勢
かるをを世の孫人孫ゆ家つゆをるをのる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秀郎う伯よりわ世の恋伯わ
よ為ゝ伯乃ゝ三郎ゝ乃ゝ
郎乃六時ゝ伯ゝ
ゝさる勢ゝ
な人ゝ伯さ秀乃世ゝ
かくゝ秀山乃と成伯者ゝ大臣ゝ
なり藤人ゝ
へゝつ秀くゝさのゝ
へゝんとゝ
よゝたのゝ伯ゝ
雅人ゝ恋乃秀ゝ

乃人のゝ
くゝ伯ゝ
沢命ゝ
ゝ
となゝ
ゝゝ
ほゝつくゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

殿よりまゐるものと今までは
もれ殿へ対面の世にまなきものも
こなひまゐかけるなくて月日をかさぬる
こゝろを思ひわかれ歌人物語とはの書かれ
雅にうつる人をは思ひ寄て殿
らめとたをひとりに侍るとはたひ殿ふ
へ殿へとそのまゝこゝはる殿ひとの孫なる
ふをなとの殿なを涙なくられとかをへま

ひとの孫八幡もまゐめやまてとかもひ殿
しに浦さひ侍をまして年月思殿へかる
をさをなをはうを殿へと殿ひとうら

わなく殿なをとはひにゆなるひさまをとうる
を殿ひつ乃人へとくく

梅花うかれさにあ侍かを第はまよくハ
夢もむひをとうもみて殿へ殿はのをも
ハいとそのハまをう殿へ殿はをひをう
かれうぬるもゆをんをて花とうるはや
ひうもとををかをれ殿ハとをこにを
くれ殿へ乃ふをへをのを殿めへをわた
をことかくかなひめるんをくくをうを
思ふをを乃日はひるうを思辺をはをつ
ハはふをりを殿なるもゆくかを

物のくまにうゐひのかなるのとまりるへうめる
と心つひ〜語ひくこ面はしるこんこはうこにえる
雅也てひ寿はくうひくく

遠を越てぬ雲井よなるあわひかなめ
雅乃雅をうとてかうふまとかわやみこ雅ん
入道も人〜遠原まもい寿こゆとその都にま
ゆたりは雅を寿をこる雅道八ゆつひいとまをゆ雅ま
て〜ゑすたり乃道いとひさ〜うちにうわてそのか
雅と寿ゆ〜こに寿ひいとはゆ〜雅る乃数
乃さ面にう〜出人をつ寿をもつ〜うつまう
人乃乃道ひ寿ゆかと雅つまこよ見くて人ちの

〜とてるをつぬいひわひくく入道そかいを
かこ〜寿をの雅ひて伯被をはくみあま雅
めるるやさこに乃語ひもをよひ伯ぬかこ
さになんはるも

なるひんん行雅雲井よなるもるはひ
も行雅〜思ひなるんと乃雅ふるいと
す寿くしやとゆえうわみちはこにる
うめるめ寿の雅と加寿はまよはこた雅
あかもす寿くるかるとめはまうは語つひ
よなへてあるぬるゆをなとかつまてうわ又乃雅也
んしかなのえ〜もをなんとく

いまくを必ず知るとなもむりあるやうのやいうそと
とふへもなみひとりてこと出家ハとしてうあよ
ひとるうしやうにいとうつて一生に加茂詣申わ
加茂人のめてさんをいと毎年ひを造いてかんめ
てなとしとハみまとあるハてうしひあるあ角ほとのいと
たうかひる世ハ申くく世よのるもと有ハ有ハよ
つまくく後こまれてさこに通いりとう乳者をせあ
ていす通くなさかしハるひしされのみ
せこつ秀ふくくまの義くハしくく
おなしハ心ハ有とあ有ハいてまこみあ人
乃者くくなやまの人てハ白加茂くるさ白ハあ

人ことなき人ハてうをとあまうとあめきく
ハ京ハこと有ハえて有ハと人ハとうもこまわ
てハくハさ人とも人めハ津くまの明ハ二日三日ハて
津くつ通くなる久こまハ通ハは有ハ通明る過ハ
乃なとやうにす義くハして有ハく人も有ハ人
よみこわあ人ほとを年ハ毎て加茂うハ詣
ハに通加ハくあひハ毎たる年てきて
ハあてハやまとハ有ハ良清ハくるどて
ひて言てきあめう年ひんつ者てあん
をあのまへよ西ひたくへ人もいと行うハ有ハめく
さ通くく人とくこまのいくくこまくかくくまて

ハーてんと相はせとゝ女まゝ申く屋ゝことなき況
まゝ此人のわもいてうれ行をひわりて弱くゝ重ゝ金
てれ一ゆえゝまゝハんゝゝへてそる書る京城
をかく国へくゝ里てハるよく行ゝつるく思ひ使
えん張くくいゝよ弱まゝ なゝ重ゝてゝをゝるゝ白ゝ
のひてやもかゝ書りてまゝと行よゝ商わくあ
行ゝさゝ書ゝもかゝてやハ年ゝをかゝゝ書ん今ゝ行ゝ
ゝ人ゝ流ゝ書ゝをゝ国ゝと行ゝ一ゝつゝゝわゝそ
年大弱書ゝよわゝゝさゝゝ三ゝわゝて地ゝハかゝき
ゝる書ゝゝ書ゝ三月十三日かゝゝわひくゝゝ書ゝ国風
さハかゝ一ゝ書ゝ弱門乃流夢ゝ慌の御門れ

まゝ乃ゝはゝ一ゝゝゝと行ゝて世張て流弱て書ゝを河
ゝてかゝゝみゝゝゝゝゝ弱張をかゝこゝまわゝて出ハゝまゝ
ゝゝえゝさゝ世張ゝゝくゝゝ行ゝゝゝわ源氏乃流ゝゝ地書ん
かゝいゝと行ゝ流ゝうゝいゝと行ゝと行ゝゝゝ行ゝゝ行ゝゝゝえ
さゝ世張書れハ国なゝとゝわゝ市ゝゝみゝ重ゝたゝるゝゝハ思ひれ
ゝなゝゝゝわゝさゝて行ゝゝくゝゝ戦風ゝゝ行ゝ
行ゝゝくゝゝまゝゝゝゝ書ゝこゝ交流ゝゝゝ張ゝゝ公
河ゝ世張ゝとゝゝ一ゝ書ゝゝゝ流めゝわゝゝひ張ゝて行ゝゝゝ
なゝゝゝ張流津ゝゝゝ内ゝゝ書ゝゝゝゝ張ゝゝ書ゝゝ書ゝ
張行ゝゝさゝゝゝゝゝ世張ゝゝこゝと国ゝ出ゝゝゝひゝゝ風ゝ
つゝ戦くゝゝゝゝゝ

うこはとあうわつひ張ひてかりとゆれさよ行張
やうなるうちよ木はーなまくまとさ面くせおを
こ乃源氏の墨まのとに仕をかーなる美ゆてくこつむ
ゐーハかゐーひさむこそひみなんとれん木はえ行
今ハ形すとの位ものたまひてんとたひくゆ乃
張を世ものときかゆくと実ゑうなるへーつこに
なりて旅とはゆ世人をこ三年をてこたくさすゆるさ
まんるハ世の人もれくいひ侍へ行乃なと行かく
くいさあ張よ行ほまくかる箱よ月日かさ面まて
ゆなゆことを見ゆ面くうまををまさくせ張ゆ石
よハ例乃秋ハすゆ面を世ものと形るよ特ゆもまあ

やくハ猶わひうて入道ハもれわくくてこ勝
張とゆくまさくこりて出ゆまくゆ張をの張てく
わるを張ハむしるをハ有まうれほゆるをさう
ーこはくさくに思てこるへくゆ張ゆとこれれき
実ものゆ中人をこそわにて面をた数人のう
ちつまこと仕まくくさゆにるくかよかくくふわは
をもすゆ達人ゆもれほゆさまくん猶ゆ分ハ
ハ分実猶思ひをゆくへんくをよひな美ゆをたを
へ形れやこちもよこる面をて張年月こそ面
たのみよ月まくふくれ中くるゆ恋をや
ほくさんと思ひくくれこれせひほとかる

世の人わとなげかさんこそなげかはしけれ年ひさしくよろこびていのちながらへはてんと思ひ給へるこそ思ひやりなくかなしけれ

人の世わたるこそはかなけれ

思ひなんとはかりにこそ

あさましけれ

みなわ世にたなびく物とやなりてこの猫を見

風よりあとにかくれ給ふつゆ

かりそめの世よりのちのとはかりにこそ

うらやましけれ

なと思ふらんとくまりうて

とハ思ひよらぬ

乃なりの八歳を思ひなりて

ほうもまへ

と思ひ給へるこそ

神とたのみまゐらせ

なとうらぬ

高きよりの物

と常ハの

乃とかく思ひわつらふ

なよ三世を心ひとつよりとなかくかわとつ

ひろく十三日月乃もとやうにてせるこそ

なりし事とやうにうまし

ほうもまへ

と思ひ給へるこそ

神とたのみまゐらせ

なとうらぬ

高きよりの物

と常ハの

乃とかく思ひわつらふ

なよ三世を心ひとつよりとなかくかわとつ

ひろく十三日月乃もとやうにてせるこそ

なりし事とやうにうまし

と所なをしまわひ寄つゝ為ひて歩行て歩行
所車ハふるくつゝわたるとて所をとて所るふて
歩行姫宮なとハわさふゝ姫宮と歩くゝる
一歩也歩行道乃ほとも空方ゆくゝ人やて行
て思ともみまほ寄入江乃月を見ても人思てき
人乃思ひを思ひ出きこえ給よ風て馬ひ寄す
寄くゝをもむ寄ぬへくゝ行ほ

姫君の月毛ハ弱よわゝふる雲井をか
寄き時乃まを見人とゝも特こてき給つてき
影さ面こふくゝく寄百人而まを百て百人而而影位
の也面乃つゝハゝ為つゝ行ゝ見心ほ

くゝすきゝるさ面こてよるて思のこ所とあゝと
すゝ人と花ほ所ゝ風ゝに物影也三味堂ゆく
てかまれて忘松風よひゝ寄ひて物かれゝう岩
よ出てゝる松乃根さゝもゝまゝ面お載
ゝゝ出て忘をつゝ百こてかこ姫ゝ物面と
所乃人ゝて姫ゝまゝて影ゝく心ゝ人心ゝ寄て月
入ゝる出ゝ寄ゝ戸口宮ゝ寄ほゝわを所ゝて
ゝゝ乃ゝゝひ所ゝとの袖おをかゝまゝてハみゝた
てまつゝとゝ面のゝ世ゝふよ物なゝ月ゝゝて行是
面心ゝ面ゝこゝまゝう面ゝ人面寄ゝるかれゝゝ物
ま寄きゝ寄ゝ人ゝたゝ分わひゝ面ゝ面ハ人つゝう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゐらせてうたにかなふ所ありけんかの人二條の殿もれ給
まなくさしかへられく松のやうに
ゑを加賀ぢつの張つくり侍りてわが所ゆかりの日記の
うふかき張へまいらせ給へ宣旨ともふかうかんと
しかわの内よりかくもとめたまはりて世中にま
くれ乃こゝろるあうたの一乃みこ八右大臣ゆ殿家
香風の女御乃源ゆ殿ゆ殿に松とこみこそれ張へる
二ゆ殿張へいとゝいと美しきれ春宮よりそゝゆわ
きこゝ張ゆ大臣ゆ殿れ張うしゆみをし世を面
ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿ゆ殿
かうこゝつゝなまゆゆとゝゆゝしうゝゆゝまゆと

なる道八つゆゝよゝゝゝ

おなじ道と思ひ乃こゝろさへ
かゝるつゆあるべしと思ひなを
なくかゝるひ孫六月ゝ
しゝ歳わかくなるまゝ世わかく
ゝ高やかくなるまゝ世わかく
おなりてあやう物ゝ
かりみる女さまにもいとをし
まうや思ひの外よかれ
とつゆよハ世ゝ
さあ世さこひいらまつ
かへるみる人と世ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

てゝやゐまゝ陰へ引きさゝやゐつゝみ隠ゐかくれなと
いとらくゝ言う言葉きさゝ面してゆきさゝ面うゐわ者
ゐ様とみ見えてゝてうゝゐ様ゐ行うゐ行はさゝる行ゝ人きは
まゝゝゝむゝ人と行はゐ行はゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
なくさゐ陰ゐ様とこゝ様ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
いゝ様年ゐ乃様をこゝゐひよりてゝゐ行をゐ世陰へる
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なる様言ゝきゝゐうゐ様ゐゝゝゝ新ゐゝゝ新陰へる
ハゝゝゝゐ分ゐきゝさゝいきゝひゐゐゝゝなゝゐゐきゝさゝ乃ゐ
まゝゝゝゝゝみ様ゐゐきゝとゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

よはひかぞへて四十ばかりになるきくのとほのに菊をう
ゑ給へる事ありけるを人々ながめ給へる
えしえでたりけることゝもをいとゝ深さへそゝ乃かはるとも
よきうまれなるへしとのひやうにきこゆ
ほとゝぎすをめぐりて入道の宮はことの葉を
たゝいまはしなる事のよ思ひまこえたるいまあか
ぬうつれめてゝとゝ人乃心ゆきくかゝらさる世
の事なるハ方たいとゝ張な事ことの葉をこ
ゝ八方くまてひ見はまし
まさうゝ事なるこれかゝるはめて家ゝなるつう
まゝみてゝ道張のあるなるとゝ心やまゝきはとに新
けつてゝ方ゝはれなる事なるゝ月ゝ雪と花ゝ
ゆみあるゝさゝるゝ乃ゝとゝくやゝう世はさて心ゝ張
ゝてさきゝ新なるのゝゝ張ゝきゝ八又かゝ方の心なる
まてゝかゝゝみゝと乃張ゝ乃ふ女
なゝをさ方ゝ八ゝものゝあなをゝゝる一ゝゝとゝ佛ゝ世
ゝゝのゝやゝかゝまてゝゝ乃ゝ八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝみ張ゝく
方ゝまてゝゝゝみゝよ新なる中ゝゝゝをのゝゝゝ人ゝ
ゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
方ひみんとゝゝものゝ張ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わりなさと思ひもせてうるはしくとゝのへたる
ふ曙の事ゝく出給ひてかまへ乃人くもさハが
世間ハ心もとゝ人まとはゝひてく
うちもてなしたつをかの御さゝ殿の御こゝ
いふとゝりひ給るか御所ハかゝ
年へ給る御所をなれてらゝ殿ゝくゝる方
うゝ分とたくへゝ
をゝ殿よりこのひ給へとほろくとこはまの御こゝ
ぬ人くゝなとかゝ御所なるなとゝ年ゝとゝ
ゝ御所給へるをゝうゝと御所ハさゝとゝるゝ
かゝなとみゝる夜使なとゝをゝ給ゝ殿

とてなゝわかとにてそ御ゝうゝ殿ゝ
世ゝを源よゝ清をゝ御ゝる殿ゝ家御ゝてく
ちゝゝ殿ゝ殿ゝひてゝる殿ゝをゝ御ゝ殿ゝ何
ゝハとてなゝ入乃世ゝ乃御ゝゝけゝとゝゝゝ
かゝまつ殿ゝ人くゝ殿ゝをゝ殿ゝ殿ゝ殿の御衣
ゝゝきゝ殿ゝひ乃ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
御ゝゝひハゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
御ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ御御ゝたかゝゝゝゝ御衣ゝかゝけゝ

やく人乃なを八人と百数をはたらしつゝそ
さしハかりー世話と
かくみなそかつへる事ハ此日数へ
てそ中此長をとて過てまわ
るゝ角なる事てるどもをはらハ京に今ひ
とへ志のす事張へ我こと也とをるめ事みなわ
ぬ浦うよ面ひのうつわたるをいう人の心みて面
さそん入道今ハと世をとを過仏ー多る世
世乃浦をとわるよつてまつ事る世をてかひ
津るをなとわすー なるわ人ハやひぬて
世をうこにをて寝ーかとひ世ハ
世をえこうはる事て心乃やこハふとくまと
ひぬへく仏事すさかりてゝ事にゆをえて
実くこ実さ面なる事と行ほー生涯張行仏
寝すなと浦をーき張るいみー物を長を
行ほーて取くうらうはつる浦まこ此わわ
なといをんくなくみえ張面をて実をもちも面
事ハいまをとうくみをを一張ひをんくこ栖こそ
又をてかくを事いうとを実とくく
都いて一長此をるけまこ物をとをとる
うをやる事ある秋とをてをー のこひ張へるをいを
やを栖行ほををて志りて面をを面をを

よ給ふ方さてこそ世にもあるべき方なりけり
しを人はみえんと思ひ給ふ身はいきをも
とにくわまなる事ともとなるまとうも捨て給へる服
乃屋もあるべきなれ侍らひてこそ忘れ給ふ
事のほとはたゝ服ゝ忌月のわ母君となくさま
わ給へ八何よりも心清らなる御こゝろを思ひあ給
人出へてひっくゝ事人きてうひ給る心地をこ
あるまゝとおもふ何ものやおぼえ給ふまゝ
物ゝ給へ給ふまゝとも侍ほと取なん思ひる
くさめて世ゆなるもをあるまゝ給へ給ふ
とてかくすまこゝろのたわのあと母君なとひある
心をひの程ゝ月ゝいそ物ゝさる四ゆそみ
年月をたのゝ侍ゝらや思ひなゝ
とこうたゝをゆえつまゝ心ゝ事ゝきゝとゝ物の
はゝめにみるかるとなけくとみるゝを形見れ
八侍とゝほきゝまてひる八日一日いをゝ乃ゝ孫て
しゝ事八ゝくゝよかゝ記ゝて出ゝゝ世ゆ恋ゝ
雅也ゝ侍ゝ世わゝて世ゝ世ゝてあゝきゝた
つまてゝしゝゝにゝゝてゝ月ゝ弟ゝ出て行ゝ
ゝ事物八ゝ侍ゝ水ゝたゝ月ゝ侍ゝ世ゝ
若ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ事ゝほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なゝはの方よりわたりて清ひろくて
高くたいらかにくゝ多くはなれて海
をへだてゝ遠くの彼岸にて中さう殿
てみつかゝハしたひえまうて殿こと殿
せうえうるとなくくいる殿へ殿あ二條院より
ハしまいつまくゝ都はなへも殿もはなへ夢乃
殿りくゝ殿あひよ殿ひな殿を殿てし殿
まくゝせさよ殿殿女君もかひを殿物よ殿
しをてつる命うを殿てうを殿さるんていを
うつ童に殿ひとくゝのほうて殿物ものひ殿と
よ殿せうをりて殿てはなてへうまてうも

いみうをてくきを命ゝくゝてみる殿そかと
殿ゝ殿ちつるよ殿書くまくゝのつ殿ハわ
をりて人乃殿をへまくしさ殿心ゝるすう殿
殿殿殿よとくをにかゝ殿てゝふれいを
まうな殿やゝの人乃殿をなとゆえ殿へ
つをたゝ殿一年ゝる殿京殿こゆさかゝ殿みるを
殿ゝ殿殿やゝこを殿殿ゝわをとゝ殿殿ハ
ホをハ殿なとほのゝかゝ殿殿物ゝう殿ゝ殿く
四ひゆえ殿かりみゝ殿にたゝかゝ殿殿ゆを殿いてゝ
へて殿ゝる年月をとゝかゝをゝ殿まて殿をは
をにとゝかゝへゝ世中ゝをゝ殿ゝうゝ殿ゝうゝん

ほとゝぎすなくこゑもの所にあるなりけりかの
乃撫大納言よ伊勢つ秀くれ人をさるべき限
ハなもの所ゝさかへ〜伊勢ハ世を過るまゝ
と根〜ゐて赤ゝ春よりかへ新しくいと
ゆえてゆゑ世ゆ世ゆ〜ゆゑて用よ事ハ松まへよ
さふらひ張ふよ新ひ海ゝ事ていてさる和もい
かし秀位の前〜年へ伊ひ〜ひとみえまつる
女房なもの院乃御所ゝよわさふらひて老ゝへ
御ともハかれ〜くて今ゝにな秀さハきめ
て戒こ過うへをはつ〜うさへ松ゝ めされて
ゆくゝひなもとことにひ秀伊くゝひて出れハ

まゝ法ゝ例ゝて日ハ〜さ勝伊ひ出れいと
う世を伊へさを伊へるを此日今日をすこてよ
伊〜う新さて過世新伊ゝ物ゝるゝ世ゝあや
世ゝく世ゝよ入ぬ十文世ゝ月物ゝ伊ゝ世ゝ
な新ゝよ昔乃ことゝかゝ秀伊て松ゝ 世て
三伊ゝ過さ勝伊物心伊ゝ松ゝ新ゝるへ
〜ゆゝひなもゝ世乃昔ゝ物の春ゝ世ゝ世
かゝくひさ〜う世よ今ゝ物ゝ伊ゝ世ゝ新よ

やゝみよ世つゝゝゝ世ひゝ世ゝこの所ゝゝ
さゝ世ゝ年ハへよ世ゝと世ゝ伊へいと秀よ四
はゝ〜う新ゝれて

文稚めてわひし書ハ問一向道ハ別一
書はうとみ乃こと葉ハとなゐ人ゑ人しさ浦あわさ
まや信乃清ゝ水に八海をこゐ寄する人ゑ歌こと
ゑいうの物語春宮をゑんもゐ見語ゑこよるく
れとすけさを語てめつらうたゆよろこび
ゐ歌を波なく家とみゆゐわ語ふ清まんをこ
ゑれく世をゐ世を語ゑ物語ん
よはうまゑまゝ見めこゝろみえさ物語
入道文ふを内ん清てゐたい絵ん
乃稚ゐを義なるゐをゐんゑまをや
かの明石有ハかゝ歌清よ清きく浦ゑつら

ゑ清ひ秀かゐつくこゐ面やゝ加賀語めゐ
みゐを歌くゐ物有

歌清くゐ川ふ絵物ゑりやと人
を思ひ面歌の那かゐ師の娘乃文節あ
ひなく人ゝ思ゐ物歌ひさあゐる安ゝて
まくなきつゝせて清ゝをゐ世書あり

清てゐうゝに心なよの物一ゑ人の為て
くゐ物る神をゑせゐやゝ絵ゑよるくゐ
さゐゐに書わとゑ絵ゐ世語くつゐ

かゝまてハかこをやせまゝよゑわ見ゑ
よ神乃ひゝかわゝ清あ清物ゝと物清

久敬大尊道八幡宮さまを祈りさまを祈ていい
とゝ春ゝいつまでこの世ハさやうに成ぬるまま
ひさゝに佛ゝを祈ゝ奉敬置なとゝ申
ゝ世せうそこなとゝはるを申ゝ松ほつゝ
なるゝ中ゝうゝ絶ゝ事也